



市指定文化財

賢明寺の銅灯籠 (久居元町)

久居元町にある登録有形文化財「油正ホール」を南へ250mほど行き、右へ曲がると、賢明寺の朱塗りの莊厳な山門が見える。山門をくぐると、閑静な境内の正面にきれいな銅灯籠が建っている。

灯籠の高さは2.4mで、少し仰ぎ見るぐらいである。笠の飾りは失われているが、八角形の火袋は亀甲紋様である。受台の周りには藤堂家の家紋である鳶紋と三頭藤巴紋が対になっており、台座には獅子・龍が浮き彫りにされている。竿には、貞享2(1685)年の年号と寄進者の紋(三頭藤巴紋)、作者である鎌物師の太田久右衛門正儀の銘が刻まれている。年号と紋から、寄進者は久居藩初代藩主藤堂高通と考えられ、久居藩と賢明寺との関係がうかがえる。

灯籠は、今もその秀麗な姿をとどめ、訪れた人の目を楽しませてくれている。

(「広報津」平成21年9月1日号)

